

7. 今後の展望と課題

本事業では、在宅における介護ロボット普及促進のため、福祉用具専門相談員に求められる役割について調査、分析を行い、以下のような結果が得られた。

- 福祉用具専門相談員は介護ロボットに対する関心や意欲が高い。
- 介護ロボットの普及促進のためには、機器性能の向上、コスト低減のほか、介護ロボットの利用場面・効果に関する情報提供と関係者の理解促進が重要である。
- 福祉用具専門相談員には、ロボットや技術に関する専門知識のほか、これまでの福祉用具と同様に、効果的な利用事例の知識、情報発信、コミュニケーション能力、多職種との連携能力が求められる。

これらの結果を踏まえ、介護ロボットの普及促進に向けて、福祉用具専門相談員に求められる姿（将来像）および福祉用具専門相談員を取り巻く今後の課題について以下のように整理した。

7-1. 福祉用具専門相談員の将来像

介護ロボット普及促進のため、将来の福祉用具専門相談員の役割は、これまでの福祉用具の利用促進の方策の延長線上にあるが、介護ロボットに対するより高度で幅広い知識とスキルを備えた上で、サービスプロセスを確実に実施し、多職種との連携を強化することにより、積極的に専門性を発揮することが求められている。

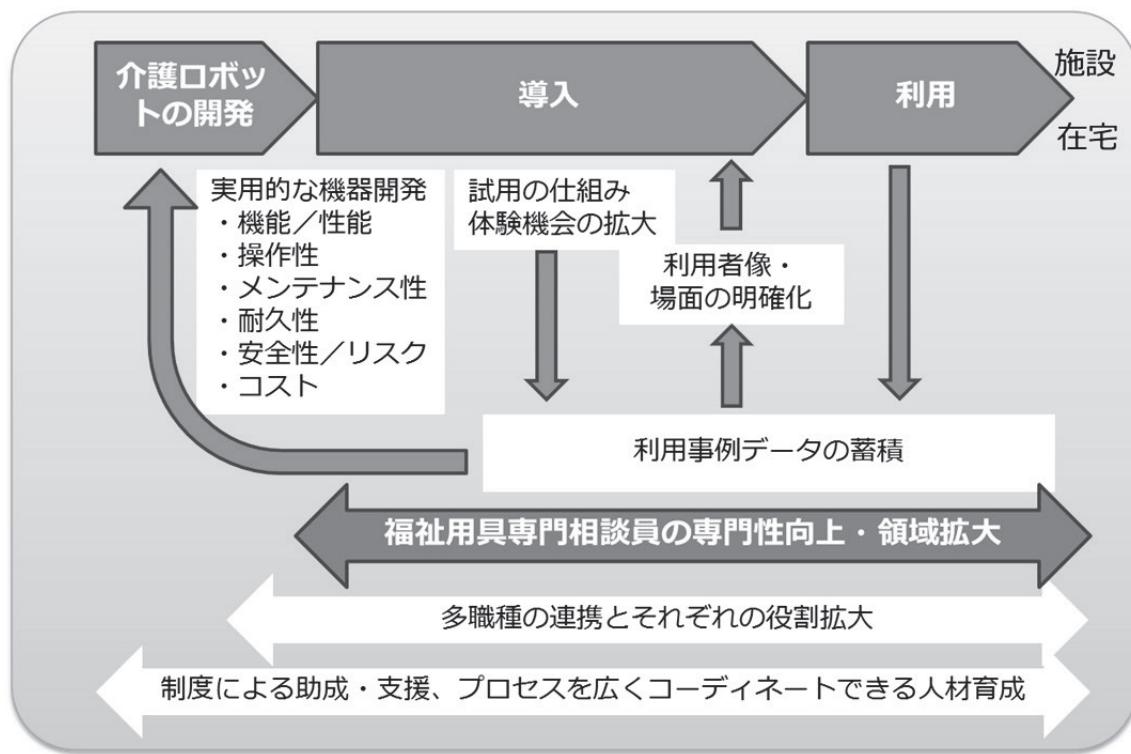
- 地域において、多職種から構成されるチームの中で、介護ロボットの専門職としての役割を担う。
- 介護ロボットや関連する情報通信技術に関する専門的知識・スキルを備えている。
- これまでの福祉用具と同様、介護ロボットを効果的に活用して在宅生活における自立支援や介護負担の軽減を図るために専門性を発揮する。そのためには、機器の特性や適応に関する最新の知識、機器の導入や適合・調整を行う技術、安全かつ適切な使用・操作方法、リスクに関する知識、保守・整備に関する技術等を習得する必要がある。
- 介護ロボットの導入・取り扱い経験を積み、効果的な利用事例を蓄積・共有して、利用者・家族やケアマネジャー、関係者に対して積極的な情報発信と適切な提案をする。
- 福祉用具と同様、サービス計画の作成、導入、評価、改善というプロセスを実施し、PDCAサイクルに沿ってサービスのマネジメントを行う。
- 施設への介護ロボット導入においても、積極的に参加し、専門性を発揮する。
- 利用者・家族・介護者の声を把握し、開発者側への橋渡しをして、ニーズに応えるロボットの開発に貢献する。

7-2. 介護ロボットの普及に向けた福祉用具専門相談員を取り巻く今後の課題

介護ロボットの普及促進には、7-1 に示した福祉用具専門相談員の専門性の向上・専門領域の拡大のほか、介護ロボット自体の機能・性能の向上はもとより、利用者のニーズに合った介護ロボットが利用者の手に届き、安心して適切に利用し続けることができるための仕組みとして、関係機関との連携、社会環境や制度の整備が必要である。

- 実用可能なロボットの開発（性能、操作性、メンテナンス性、耐久性、安全性、コスト等）
- ロボットの試用の仕組みの整備、身近な場所での体験・利用機会の拡大
- 効果的な利用が望まれる利用者像、利用場面の明確化
⇒事例蓄積のためのプラットフォームの構築⇒事例の蓄積⇒共有・情報発信
- 多職種（ケアマネジャー、リハビリ専門職、ヘルパー等）による連携と役割の拡大
- ロボット開発から導入、利用までの一連のプロセスをコーディネートできる人材の育成
- ロボットを現場で効果的に使いこなすための人材の育成
- 上記を促進するための制度による助成、支援

図表 60 介護ロボットの利用促進に向けた今後の課題



福祉用具専門相談員は、これらの課題を認識しつつ、現在の業務の中で徐々に介護ロボットの知識と経験を蓄積し、業務領域を広げていくことが求められている。